

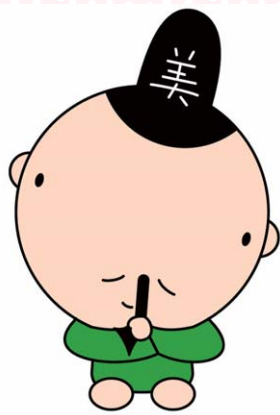
美作国建国と

古代の鏡野町域①

平成二十五年（二〇一三）四月三日は、美作国が建国されて一三〇〇年目にあたります。

奈良時代から平安時代の律令国家で編纂された歴史書、六国史のうち、『日本書紀』に続く二番目に成立した、『続日本紀』の和同六年（七一三）の条には、備前国のうち、英多・勝田・苦田・久米・大庭・真嶋の六郡を割いて美作国を置く、とあります。同じくこの日に丹後国（京都府北部）と大隅国（鹿児島県東部と奄美群島）も建国されています。

美作国建国に関わるその他の記録としては、平安時代末に成立した用語辞典である『伊呂波字類抄』には、



かたみくん

備前国の国司（備前守）である百濟南典と、国司の次席（備前介）である上毛野堅身が提案して、備前国から六郡を割き、上毛野堅身が美作国の国司となったという記事があります。この初代美作国司・上毛野堅身が、現在美作建国一三〇〇年記念事業のマスコミキャラクターである「かたみくん」のモデルです。

国の行政機関である国府は、現在の津山市総社一带にあったと考えられています。

これらの記録以外の、美作建国に至る過程や歴史的背景については、他に資料がなく、また、国名の由来についても明らかではありません。しかし、吉備国（備前・備中・備後・美作）は、古来近畿地方を中心とするヤマト政権と拮抗する勢力を誇っていたとされ、『日本書紀』などにもヤマト政権と吉備国の争いや反乱がたびたびあったとされます。

こうしたことから、吉備国がヤマト政権の傘下に入った後に、吉備国の強大さを恐れたヤマト政権が吉備国を分断して、勢力の削減を計った

という説もあります。吉備国は、七世紀後半に、備前・備中・備後に分割され、さらに備前から美作が分割されています。

また、美作国は良質な砂鉄が多く採れることから、古代からたたら製鉄が行われていた地域でした。古代における鉄は、国家にとって最も貴重な資源でしたので、鉄生産の盛んな北部を吉備勢力から切り離したという説もあります。

しかし、さらに時をさかのぼってみますと、弥生時代頃の土器の型式は、県北部と南部ではそれぞれ違った様相を示していますし、古墳時代後期頃からは「陶棺」とよばれる焼き物の棺が県内では美作を中心に使用されており、備前と美作では国が



美作国府跡（津山市総社・国府台寺）



陶棺（鏡野郷土博物館蔵）

分かれる以前からそれぞれが違った文化を形成していたことがわかります。

鏡野町でも、町域南部の古墳では陶棺が多く見つかっていますし、北部では古代のたたら製鉄遺跡や、製鉄炉の破片が出土した古墳なども見つかっています。

美作建国の背景は、こうした異なる文化の二つの地域が、南北に分けられたということだったので、そこに政治的な意図があった可能性は十分考えられます。

参考資料：『鏡野町史』史料編、

『津山市史』第巻、

『みんなて学ぶ、ふるさと美作のあゆみ』

生涯学習課 日下

電話（0868）54-7733